



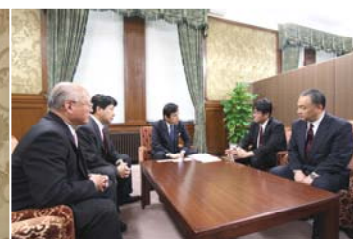
## J R 西日本の懲罰的な社員管理反対！

# J R 西労

国土交通省  
国会議員  
民主 党

# 要請行動

J R 西日本 福知山線事故 原因 「日勤教育」・懲罰的運転士管理 を無視・事故再発に危惧



▲ 民主党幹事長室で阿久津幸彦総括副幹事長に『要請書』を手交するJ R 西労・田村委員長

J R 西労の代表9名が4月17日、J R 西日本の「懲罰的な社員管理の是正などを求めた国会議員への要請をおこなった。

J R 福知山線事故から7年、国交省 航空・鉄道事故調査委員会(当時)が事故原因を「日勤教育又は懲罰処分をおこなうという運転士管理方法が関与」と指摘したにもかかわらず、J R 西日本では現在でも運転士のミスや運転事故を機に次々と運転士職を實質剥奪するなど、懲罰的な管理が続いている。会社は「資質に欠ける」などとしてこの2年間で16名の運転士を駅などに配転させているのだ(次頁参考事例参照)。こうした事態から、職場では「次は俺の番かも…」とした空気が蔓延。ミスや事故の再発防止に向けた原因究明にはほど遠い状況だ。

議員要請では衆参議員会館事務所を訪問。数多くの議員・代理に個別に対応いただき、J R 西日本の「懲罰的な職場実態を訴えた。議員らは、事故調の指摘を真摯に受け止めないJ R 西日本の実態に驚き、「何故J R 西日本

だけなのか」「これでは再び事故が起こりかねない」など、J R 西日本への指導や監視を強めていくことが述べられ、J R 西労の奮闘に激励をいただいた。

◇ ◇ ◇

18日にはJ R 西労 田村委員長らが民主党幹事長室を訪れ、阿久津幸彦総括副幹事長に『要請書』を手交。田城郁参議院議員やJ R 総連 武井委員長らも同行し、危険な職場実態を訴え、アドバイスをいただいた。

また、国土交通省に対しては、室井邦彦国交大臣政務官に要請。職場の現状に「しっかりとお聞きした」と応えていただき、「国交省の立場で対応をおこなっていく」と、各方面への働きかけが約束された。

◇ ◇ ◇

J R 西労は福知山線事故から7年目の4月25日、事故現場での慰霊と、「懲罰的な社員管理反対！ 営利優先・運行第一・社員への責任追及・労使癒着の不安な企業体質を一新する集会」を予定している。

## まかり通る「懲罰」の社員管理！

どうしよう…  
どうしよう…

暗黒の  
JR西日本

# 運転士 声が震え…

JR西日本で運転士「失格」が相次いでいる。その数はこの2年間で16人(JR西労調査)。ミス  
の原因究明もなく「資質に欠ける」と判断され、泣く泣く駅職場へと配転させられているのだ。

ある女性運転士が2月19日、JR山陽本  
線・海田市駅→向洋駅間で、カーブ手前の速  
度照査地点を2km/hオーバーで電車を運転。  
91km/hで通過した。そのためATS(自動列車  
停止装置)が  
動作し、電車は非常ブレーキで自動停止した。

その後、運転を再開した電車の運転室の音  
声録音装置には、「どうしよう、どうしよう、  
どうしよう、どうしよう…」と繰り返しつつや  
く運転士の悲痛な声が、終着の広島駅までの  
約10分間にわたり録音されていた。ブレーキ



のミスを会社から咎められ、配転させられる「懲罰」への恐怖心に苛まれてのことだった。

この運転士は、以降、乗務を外された。次の出勤時には「職場に行きたくない」と泣き崩れ、な  
だめられてやっと職場に入れられた。しかし待っていたのは、運転士失格の配転辞令だった。

運転職場では、「次は俺の番かも…」と、ミスに対する「懲罰」の恐怖が蔓延しているという。

7年前のJR福知山線事故の運転士も、それまでのミスでの「日勤教育」を恐れ、速度超過で大事  
故を誘発した。国土交通省・航空・鉄道事故調査委員会(当時)は福知山線事故の原因を、JR西日  
本の「厳しい日勤教育又は懲戒処分をおこなう」という同社の運転士管理方法が関与」と結んでいる。

今も続く「懲罰」での運転士管理。このままではいつ次の事故が起こるかわからない。このJR西  
日本の企業体質を何としても変えていかなくては、安全な鉄道輸送は保てない。